

最近の WHO-FIC における議論  
 (世界保健機関(WHO)-国際統計分類(FIC)ネットワーク年次会議のご報告)

	2013 年	2014 年
主催 開催期間 会場 参加者	中国 WHO-FIC 協力センター、 事務局 WHO 10 月 12 日(土)～18 日(金) 北京エンパーク・グランド・ホテル WHO、各 WHO 国際統計分類協力センター、各国政府厚生・統計関係部局、NGO、オブザーバー等 約 100 名	カタロニア厚生省健康安全評価庁(AQuAS)、 事務局 WHO 10 月 11 日(土)～17 日(金) バルセロナ国際会議場 WHO、各 WHO 国際分類協力センター、各国政府厚生・統計関係部局、NGO、オブザーバー等 約 250 名
・分類改正改訂委員会(URC: Updating and Revision Committee)	ICF 分野:65 件中(会議中の審議 46 件) ・採択 25 件(修正を加えての採択 11 件を含む) ・否決 15 件 ・継続審議 25 件	ICF 分野:41 件中 ・採択 7 件(修正を加えての採択 1 件を含む) ・否決・取り下げ 19 件 ・継続審議 15 件  ✓ ICF の 2015 年バージョンを Web 上にアップロードし、PDF を公開することが決定された。 <a href="http://www.who.int/classifications/icfupdates/en/">http://www.who.int/classifications/icfupdates/en/</a>
・教育普及委員会(EIC: Education and Implementation Committee)	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 普及データベース(ICD・ICF) オランダ協力センターが新しいデータベースを作成。協力センターのいくつかが協力している。WHO 地域事務局の協力などを仰いで多くの情報を入れていく方針。</li> <li>➢ ウェブ・トレーニングツール(ICD・ICF) ・ICF ウェブ・トレーニングツールは、現在、ドラフト版がウェブサイトに掲載されている。2013 年 11 月に WHO の承認を得て、各協力センターにおいて 12 月以降、順次、翻訳を進めていく。9 か国語に翻訳される予定。WHO では、2014 年以降に新しいモジュールの制作を着手予定。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 普及データベース(ICD・ICF) オランダ協力センターが WHO-FIC 普及データベースをほぼ完成させ、今年度中にデータベースを WHO に移管する予定。</li> <li>➢ ウェブ・トレーニングツール(ICD・ICF) ICF ウェブ・トレーニングツールを 2014 年 6 月に WHO が承認。これを 2015 年初めに WHO ウェブサイトに掲載すべく、WHO で使用している編集ソフトウェアへの移行作業を進める予定。</li> <li>➢ 生活機能分類グループ(FDRG)との連携強化 ICF を担当する FDRG の要請を受け、FDRG と共同で教育素材の開発に取り組むことに合意した。また、年次会議を FDRG と共同で開催する提案が出された。</li> </ul>
・生活機能分類グループ(FDRG: Functioning and Disability Reference Group)	<p>1. ICF 改正と改訂のプロセスについて</p> <p>a. 145 の提案が 2012 年から繰り越され、65 の提案が最終層にあり、12 の新規の提案が 2013 年に提出された。公開討論層には、79 の提案がある。</p> <p>FDRG メンバーからはプラットフォームの使いにくさに関する意見が出されたため、WHO は ICF のプラットフォームの改正可能性について調査することとなった。</p>	<p>1. ICF 改正と改訂のプロセスについて</p> <p>a. 84 の提案が 2013 年から繰り越され、26 の提案に集約された。6 の提案がプラットフォームを通じて加えられた。公開討論層には 11 の提案がある。</p> <p>b. 提案に対して自動的に拒否することは行わない。</p> <p>c. ブラウザと ICF テキストの改正について 2015 年までに WHO で検討する。</p> <p>d. ICF オントロジーのアップデートに寄与する重要事項が確認された。</p>

	<p>b. ICF-CYとICFの統合については2011年のWHO-FIC年次会議で合意に至ったが、今後WHOはICF-CYの維持についてサポートせず、ICFへの統合に焦点を当てることとなる。</p> <p>2. ICFガイドライン(practical manual)(暫定版)の出版発表 ICFの普及促進を目指して、2006年から各国の専門家及びFDRGメンバーによって開発され、暫定版ではあるが、WHOの出版物として刊行された。今後1年かけて意見があつめられ修正されたのち2014年10月に最終版が刊行される予定。</p> <p>3. ICFオントロジー ICFは適切なオントロジーなしに開発されてきた。WHOはコンセプトについてIHTSDOとFDCとともにコンセプトについて再考することが合意された。FDRGは参考文献や内容の提供について合意した。</p>	<p>2. ICFの教育について</p> <p>a. 2014年中にFDRGはICFの教育に関する具体的なニーズを調査し、EICへ提示する。</p> <p>3. ICF文献レビュー基準</p> <p>a. レビューの基準の開発に関する追加作業が完了した。</p> <p>b. 基準の評価により、ICFの項目に関する文献の質の改善の必要性が確認された。</p> <p>4. ICFを用いた電子データ収集</p> <p>a. 現場からのデータ収集の必要性が強調され、次のステップに向かうためのワークショップが開かれた。</p> <p>b. モバイルアプリに対するユーザーの要望に関する調査結果の収集を完了。</p> <p>c. 将来の課題を提示。</p> <p>➤ 日本におけるICF利用促進の報告 ICF普及と実用化に向けて、国内では有識者会議、シンポジウムの開催等努力を続けている旨を報告した。</p>
<p>・国際統計分類 拡張委員会 (FDC: Family Development Committee)</p>		<p>その他、ICF環境因子領域での不十分な状態表現の欠点を補う目的でのISO9999の併用、ICFの国際経済活動標準分類(ISIC)、国際職業標準分類(ISCO)への応用、国際看護行為分類(ICNP)とヘルスケア用語のハーモナイゼーション、プライマリーケア分類(ICPC-2)と国際統計分類の関連について発表があった。</p>

注)

- ・ICF(International Classification of Functioning, Disability and Health) : 国際生活機能分類
- ・ICF-CY(Child & Youth) : 国際生活機能分類—児童版
- ・ICD(International Classification of Diseases and related health problems) : 疾病及び関連保健問題の国際統計分類(国際疾病分類)
- ・IHTSDO(International Healthcare Terminology Standards Development Organisation) : SNOMEDを管理している米国の組織
- ・SNOMED-CT(Systematized Nomenclature of Medicine--Clinical Terms) 国際医療用語集
- ・ISO(International Organization for Standardization) 9999: 福祉用具分類に関する国際規格